

聖霊降臨節第 16 主日礼拝説教要旨(9 月 6 日)

『天の門』 早川 真牧師

創世記 28:10-22

ヤコブに与えられた神の祝福は、やがて全ての人に与えられる神の祝福を前もって表わすものでした。ヤコブが夢で見た階段は天から地に向かって伸びていました。つまり、神のもとから降りて来た階段でした。それは、天から地上に降りて来て下さったイエス・キリストのことを表しています。神と出会うために私たちが天に昇る階段を作らなければならないというのではなく、神が天から階段を作って降りてきてくださり、地上の生涯を共に歩んでくださるのです。

ヤコブは神様に対する誓いの中で、「もし神が…無事に父の家に帰らせてくださるなら…」と言っています。父の家、それはイサク、リベカ、エサウがいる場所です。彼らにはそれぞれ問題がありました。しかしそれでもヤコブにとってそこは帰るべき父の家でありました。

この父の家とは、私たちにとって教会です。天の父なる神の子として頂き、その父の家である教会で私たちは兄弟姉妹として共に歩んでいます。しかし教会に集う私たち一人一人もまた、ヤコブの父の家と同じように、誰一人、問題のない人はいません。しかし教会は、その問題の中にあっても神は私たちと共にいて全てを益としてくださることを信じて歩む共同体です。その事に期待して主にあって結ばれた神の家族として、神と共なる地上の旅路を歩みたいと願うものであります。

やがて私たちも地上の旅路を終え、本当の父の家に帰る日が来ます。そこにおいては、ヤコブがエサウと和解したように、全ての兄弟とも和解し、永遠に神と共に生きることになるでしょう。その時まで、天の門を開いてくださったイエス・キリストと共に、神の偉大なご計画の中を共に歩んでまいりたいと思います。